

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

令和3年度病虫害発生予報第6号

令和3年8月30日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	やや多 やや少 並 並 やや多 並
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	並 並 並 やや少 やや少
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	遅 — —	少 やや少 やや多
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 やや多 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	並 やや多 並 並
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	並 並 やや多
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	並 やや多 並 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや多

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は平年並である。

イ. 8月16～17日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は58.3%で、平年(44.4%)よりやや高かった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 県全域における葉いもちの発生圃場率は55.3%と平年(29.1%)より高く、出穂期を迎える中生品種及び晩生品種では、発生状況に留意する(病虫害発生予察注意報第1号、令和3年8月18日発表)。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査によると、発生圃場率は21.1%で、平年(36.5%)より低かった。

イ. イネの茎数は平年並である。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月16～17日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は17.8%で平年(17.6%)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より多かったことから、本年度の種子の保菌率は平年より高いと考えられる。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘殺数は、2 頭で平
年 (2.3 頭) 並であった。

イ. 8 月 16～17 日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は、平年 (9.7%) より低かった。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第 5 号 (令和 3 年 8 月 20 日発表) 参照。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並
とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並
とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並
とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘
殺数は 1,305 頭と平年 (1,237.8 頭) 並であった。

イ. 8 月 16～17 日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は 0.5% で
平年 (1.9%) より低かった。

ウ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並
とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における 8 月 1 半旬～ 5 半旬の誘殺数は、アオクサ
カメムシが 4 頭で平年 (5.5 頭) 並、イチモンジカメムシが 3 頭で平年 (9.
3 頭) より少なかった。

イ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並
とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

2. 果樹

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は0頭で平年(1頭)より少なかった。

イ. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(5.4%)より低かった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は17.9%で平年(27.5%)よりやや低く、発生程度は概ね低かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は7.1%で、平年(1.9%)よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査における発生圃場率は45.5%で、平年(39.0%)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 県内でQoI剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生の多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する。

(2) ベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(86.5%)よりやや高く、一部多発している圃場が確認された。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 令和3年度植物防疫情報第3号(令和3年6月30日発表)参照。

イ. 県内で QoI 剤耐性菌の発生が確認されているので、本年度発生が多い圃場では次年度の薬剤の選択に留意する(平成 24 年度植物防疫情報第 2 号、平成 24 年 4 月 6 日発表参照)。

(3) さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8 月 6 日の巡回調査によると、発生圃場率は 0 % で平年 (18.6%) より低かった。

イ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 6 日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 24 日の巡回調査によると、発生圃場率は 50.0 % で平年 (49.2%) 並であった。

イ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8 月 24 日の巡回調査によると、発生圃場率は 75.0 % で平年 (50.3%) よりやや高かった。

イ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 24 日の巡回調査によると、発生圃場率は 25.0 % で平年 (25.9%) 並であった。

イ. 8 月 26 日の季節予報によると、9 月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8 月 24 日の巡回調査によると、発生圃場率は 75.0 % で平年 (76.9%)

並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は、平年(発生圃場率1.3%)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(36.9%)よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並
モザイク病 **やや多**

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬～5半旬の飛来数は369頭で、平年(311.7頭)並であった。

イ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生圃場率は0%で平年(6.5%)並であった。

ウ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は20.0%で平年(9.7%)より高かった。

エ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)における8月1半旬～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は0頭で、平年(1.3頭)よりやや少なかった。

イ. 8月24日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は55.6%

で平年（25.0%）よりやや高かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は53.8%で、平年（21.4%）よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

ウ. 薬剤感受性の低下が懸念されるので同一系統の薬剤の連用を避け、薬剤以外の防除対策を組み込む。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 8月20、24日の巡回調査によると、発生圃場率は44.4%で、平年（5.4%）より高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温及び降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

